

犬と仲良くなる方法 があれば知りたい

総務課 宇都宮 千怜



段々と暖かくなってきましたね♪ 猫達の抜け毛が家中に舞うようになり、あ～もうすぐ夏が来るんだなあとかコロコロクリーナー（？）を片手に、抜け毛掃除で夏の訪れを知る我が家です。

気持ちの良い季節なので、お休みの日には子供達と公園に行きます（←正：連れていかれます）。広いグランドのある公園だと犬の散歩をしている人によく会います。すれ違うと挨拶をするのですが、大体同じ時間帯に同じ方がお散歩している事が多いのでしばらくすると顔見知りになり、世間話をしたり、仲良くなる事もあります。

ちなみに私は猫を飼っていますが、犬も大好きです。触っても良いよ～と言われると、犬を撫でさせてもらうのですが、噛まれないかな？ 嫌がってないかな？といつも心配になります。小さな子供を連れているので、子供が噛まれないかと、それも心配になります。

そもそも犬ってどんな人が好きなのか？ 犬に好かれる人ってどんな人なのか？と色々気になってきてしまい、調べることにしました。

犬と仲良くなる？方法10箇条

① 飼い主に許可をもらう。

まず、ワンちゃん触っても良いですか？と許可をもらいましょう。

② 犬に準備をさせます。

犬が匂いをかいでくれている間は動かないでじっと待ちましょう。

③ ゆっくり動き腰を落とす

上から見下ろしたままだと怖がられるので、ゆっくりと腰を落としましょう。

④ 犬と同じ目線になる

この時に注意したいのは犬の前には座らず、横に並ぶと良いそうです。また、顔を覗き込むのはびっくりさせてしまうのでやめましょう。

⑤ いきなり頭を触らない

いきなり頭を触ってしまっって噛まれるパターンが多数…

⑥ カーミングシグナルを理解する

カーミングシグナルとは？ 犬は話せないので犬の気持ちを知ろうという事です。

（気分のいい時）

両耳の間が広がります。口元が緩んで少し下の歯が見える時はのんびり幸せ気分を感じています。

（気分の悪い時）

あくびをする。鼻をなめるときは不安や緊張を感じて、気分が悪い時です。ストレスを感じているときですので必要以上に触ったりしないようにしてあげましょう。

（相手に近づいてほしくない時）

自分に近づいてくる人間や犬に対して体をブルブルと振ります。これは嫌な相手にストレスを感じた時です。むやみに近づかないようにしましょう。

⑦ 近づくときは手の甲を嗅がせる

まずはやさしく声掛けをしましょう。こんにちは～と声をかけつつ、大丈夫そうなら手をグーにして甲の匂いを嗅いでもらいましょう。

⑧ 大きな声を出さない

つつい『きゃー!! かわいい!!』って言いたくなります。一息ついて、心の中で叫ぶことにします。

⑨ 触るときは犬から手が見えないように

犬が触らせてくれそうだったらまずは、犬のあごの下あたりからゆっくりさするように触ってみましょう。黙って触らせてくれたら、次は首から胸のあたりを触ってみましょう。もふもふ。私はいつも甲でなく掌を向けていました…ごめんなさい。

⑩ 抱きしめない

これは完全にNGみたいです、今までのすべての工程がムダになります。

あ～、わんこ、かわいかった…！ しっぽふってた！

ボール遊びしてたな～！と興奮気味に帰宅すると我が家の猫がくくんと匂いを嗅いできます。ふーん、という顔をしつつそのまま遠くへ…愛情表現豊かな犬、我が家のツンデレ猫もみんなそれぞれかわいいです。



参考: <https://spicominet/media/articles/2440>

麦

外販課 山島 秀章

小麦

うどんなどの麺類、パンや菓子類など、さまざまな加工品が作られる。小麦の穂は3つの実が交互になる。

二条大麦

主にビールや焼酎の原料となる。6列ある穂のうち、2列のみに大粒の実がなるため、「大粒大麦」とも呼ばれる。

六条大麦

主に押し麦、麦茶に利用される。6列ある穂すべてに小粒の実がなるため、「小粒大麦」とも呼ばれる。

はだか麦

主に味噌の原料となる。外見は六条大麦とほぼ一緒だが、穀粒の外皮がはがれやすく、粒が裸になるため、この名がついた。

麦は古代オリエント文明の形成と発展に重要な役割を果たした穀物であり、その後の人類文化史のなかでもとくに西洋文明の流れにおいて、絶えず主要作物としての重要性を保ってきた。

麦の栽培化は西南アジアの山麓（さんろく）地帯において始められ、最古の農耕村落遺跡として知られるイラクのジャルモ（前7000）からは、栽培されたコムギ（2種類）が出土している。

麦栽培は、散布型の播種（はしゅ）と石鎌（いしがま）による穂刈りという方法で始められたらしく、初期の品種はいずれも皮麦で、まだ裸麦は出現していなかった。

このことは、のちに至るまで麦が粒食ではなく、粉食として利用されることと関係する。つまり石鎌による収穫法は、結果として穂の大きさや収穫時期が均一な麦を選び取るようになって改良種が出現し、また散布型播種法は大規模な畑での農耕を可能にした。

さらに家畜利用による犁（すき）耕作と相まって麦の生産性は急速に増大し、ほかの栽培植物による農耕に比べ、はるかに早く都市や文明への発展がみられた。

また、麦は比較的適応性の高い植物であったため、自生地と異なる環境においても生育が容易であった。やがて文明の波及とともに各地に伝播（でんぱ）し、その過程での雑種交配を経てパンコムギやマカロニコムギなどの代表的優良品種が出現し、麦農耕はますます効率のよい農業へと発展して、その後の文明の経済的基盤となった。

このように重要な作物である麦に対し、人々は古代からさまざまな信仰を形づくってきた。古代エジプトのオシリス神話では、切り刻まれた死体から麦が芽生えてよみがえるという話があるが、オシリス（冥界（めいかい）の支配者）は穀神でもあり、これはよみがえりと同時に麦の収穫と翌年の豊饒（ほうじょう）とを意味している。古代ギリシアにおけるデメテルとペルセフォネの神話でも、他界からのよみがえりをモチーフとする穀物の女神について語られている。

普段何気なく口にしている食品や飲料には様々な「麦」が使われています。特に夏といえばビールが美味しいですね。

参考: <https://kotobank.jp/word/%E9%BA%A6-600062>